

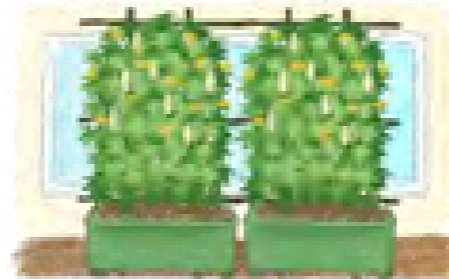
家庭でつくろう！緑のカーテン

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



緑のカーテンってなんだろう？その効果は？

「緑のカーテン」とは、つる性の植物の葉をネットや支柱に絡ませ、建物の窓の外や壁面を覆うようにするカーテンのことです。緑のカーテンは、日射の熱エネルギーを約80%カットしてくれ、さらに植物の葉から水分が放出されることで周囲の温度を下げるすることができます。その結果、部屋の中が涼しくなりエアコンの使用量が減るので、植物の力をエネルギーの節約に役立てることができるものなのです。



“土に還る自然素材” ヘチマ 家庭での活用法

ボディ用、掃除用にと活躍するヘチマたわしをつくってみよう！



※身体をこするときは、肌を傷つけないようにやさしく使いましょう。お掃除で使用する時も、素材によっては傷がつくことがあるのでご注意ください。



タワシの作り方

- ①少しだけ黄色を帯びたヘチマを収穫して、作りたいタワシの大きさに切りお湯で20分～30分茹でます。全体にお湯がかかるように、落とし蓋をしたり、お箸で抑えながら煮るとより良いでしょう。
- ②茹でたヘチマを水につけ、冷めてきたら皮をむきます。一緒に種も取り除きますが、取れない種があっても乾燥したあととれるので大丈夫です。
- ③後は天日で干して乾かしたら出来上がりです！

自宅で作れる生ごみ処理機 ダンボールコンポスト

ダンボールコンポストとは家庭から出る生ごみを腐葉土などの基材と一緒にダンボールに入れて、微生物の働きで有機堆肥に変える方法です。ダンボールは場所も取らないので集合住宅のベランダでも行えます。生ごみをリサイクルして堆肥にすることで、緑のカーテンを作る際の土づくりにも活用できます！

ダンボールコンポストで用意するもの

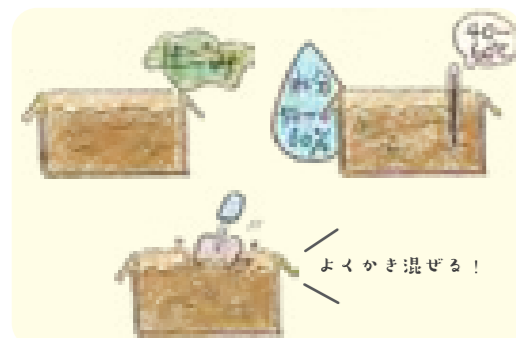
- ・ダンボール箱(二重構造／大きさはみかん箱程度)
- ・基材-腐葉土、もみ殻くん炭、竹パウダー、米ぬか、おがくず、など
- ・ダンボールを置く台-角材、苗箱、木製のすのこのなどの風通しの良いもの
- ・かき混ぜる道具-スコップなど
- ・ふた-ダンボールか不要になった布で虫よけ用カバーをつくります。

ダンボールコンポストの手順

- 手順①ダンボール組立
- 手順②ダンボールを置く台の上に設置する
- 手順③基材を入れる(量は箱の7分目を目安にして下さい)
- 手順④生ごみを入れる(1日500gを目安にします)
- 手順⑤ダンボールにふたをする
- 手順⑥日々の手入れ(日々かき混ぜながら3ヶ月ほど生ごみを投入)

完熟堆肥の完成!

(生ごみ投入をやめて約1～2ヶ月、水分を加え良く混ぜて熟成させます)



土づくり 3~4月



赤玉土5割、黒土2割、ピートモス、パーミキュライト、腐葉土をそれぞれ1割のバランスで配合します。初めての場合は市販の野菜用または花用の培養土が便利です。

植える、発芽 4月



- ①種は一晚、水につけておく。
- ②種まき用に3号ポリポットに土を入れて2cmの深さの穴をあけそこに種をいれます。
- ③土が乾いたら水やりをまめに行います。

植え替え 5月

- ①プランターに培養土をいれ、植え付ける2週間前くらいに苦土石灰も入れて混ぜておきます。あれば堆肥も混ぜると良質の土になります。
- ②1～2苗を植え付けます。
- ③植え方は株と株の間を30cmくらいは開けて株元が隠れない程度に土を被せます。遅くとも5月中旬くらいまでに植えましょう。時期が遅いと育ちも遅くなり暑い時期のカーテンに間に合わなくなります。



緑のカーテンのつくり方とスケジュール

3月
March

4月
April

5月
May

6月
June

7月
July

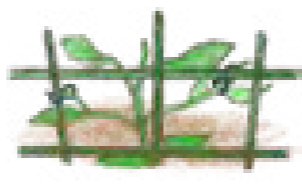
8月
August

水やりと肥料 6~7月



水は1日に1回、プランターの下から流れ出てくるくらいたっぷりと与えます。肥料は、固形の化成肥料を根元から離れたところに浅く埋めます。

誘引 6~7月



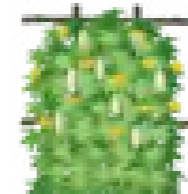
最初はネットや支柱につるがうまく絡むように誘引してあげます。また、親づると呼ばれる中心の一番太い茎が1m程に達するまでに親づつの先を2～3cm切ることを繰り返すと、わき芽から新たな茎とつるが伸びて横に広いカーテンになっていきます。

防虫 6~7月



アブラムシ、ハダニなどが付くことがあります。市販の植物保護液や活力剤を使用し、葉や花を守りましょう。

緑のカーテンができた！ 7~8月



7月中旬から根も広がり、水やりもプランターの端から端までたっぷり多めに与えます。

収穫 8月



水やりをしながら成長していく緑のカーテンを楽しみましょう。確実に実を付けたい場合は、雄花を雌花に押し付けて受粉を手伝ってあげましょう。

